



第20回公開県民講座

高齢者にやさしい医療

近森病院 副院長 川井 和哉

日本一の健康長寿県を目指すために

「日本一の健康長寿県」を目指すためには、病気の予防と必要な治療を受けていただくことが大切です。体に負担が少ない最新医療を知っていただくために、第20回公開県民講座「高齢者にやさしい医療」を開催しました。約400名の参加があり、関心の高さがうかがわれました。

近森正康新院長の挨拶と司会進行で開会しました。①末梢血管～いつまでも健康に歩けるために～関循環器内科部長。足は第二の心臓であり、健康のためには歩くことが重要であること。カテーテルによる負担の少ない足の血管治療の有用性について示されま

した。②胸部大動脈瘤～破れる前に血管を補強～宮崎放射線科部長。大動脈瘤という病気と診断についての説明がありました。破裂を予防する治療は手術だけでなくカテーテルによるステントグラフトがあり、適応があれば負担の少ない治療が可能であることが解説されました。③脳梗塞～血栓を取り除くカテーテル治療～西本脳神経外科科長。脳梗塞が疑われる3徴候（腕の麻痺、顔の麻痺、言葉の障害）を参加者と一緒に確認し、一つでもあればすぐに救急車で受診することの重要性が強調されました。最近では血栓を溶かす点滴治療だけでなく、血栓を掻き出すカテーテル治療も可能になり、24時間365日対応していること。脳卒中専門病棟で多職種とチーム医療を展開していることが紹介されました。

振り込みそうになるまで、面白おかしく演じていただき会場も大爆笑でした。

④肺炎～健康に元気に長生きするために～石田呼吸器内科部長。肺炎による死亡の増加と他の病気を引き起こし健康寿命が短縮する問題点が示されました。元気で長生きするために、65歳を過ぎたら肺炎球菌ワクチンを接種することの重要性と実際どうしたらいいかについて説明されました。⑤大動脈弁狭窄症～切らずに治す最新治療。私から高齢化にともない増加しているが、体に負担の少ないTAVIというカテーテル治療が可能になったこと。当院は中四国でも有数の症例数と成績を誇っていることを紹介しました。最後に入江副院長から20回までの公開県民講座についての説明と閉会の挨拶で終了しました。



司会 院長 近森 演者 副院長 川井 挨拶 副院長 入江



循環器内科 関 放射線科 宮崎 脳神経外科 西本 呼吸器内科 石田

警察署員の寸劇も

この後サプライズとして、高知警察署員による特殊詐欺被害を防止するための寸劇が上演されました。「医療費の還付金がある」との電話で、ATMから電話の指示通り

新体制、最新医療の提供を

最後まで熱心に聴講していただき、当院に対する期待の高さに身が引き締まる思いでした。1月から院長・副院長が交代、新しい近森病院として出発しました。今まで以上に県民のみなさまが安心して地域で暮らせるように最新医療を24時間365日提供していきたいと思っております。これからもよろしくお願いたします。 かわい かずや



高知警察署より「特殊詐欺被害防止啓発寸劇」の上演



参加者数約400名



摂食障害（拒食症・過食症）という文明病

近森病院総合心療センター
副センター長 宮崎 洋一

精神科医になって最初の10年余り、幡多地域の単科の精神病院に勤めていました。当時、幡多地域から都会に出て摂食障害になって帰郷した人を数人診察しましたが、地元で発症した摂食障害は一人も診察したことがありませんでした。

ところが約20年前に近森病院に赴任したところ、摂食障害それも身体的に重症の方が多数診察に訪れ、途方に

くれたものでした。というのは、それまで治療をしていた統合失調症やうつ病の人とは全く異なり、不思議な症状と行動を呈するため理解困難で、従来の対応がほとんど役に立たなかったからです。

以後勉強を重ね患者さん自身やご家族の治療グループなども手探りでやっていく中で、10年位してやっと目途がついたというか大分わかるようになり、スタッフも適切な対応をしてくれるようになったおかげで患者さんも結構治ってくるようになりました。

長年彼らの治療をしてきた中で思ったことですが、ストレスで食べられなくなるタイプの摂食障害はどの時代・どの文化においてもいたはずですが、過食一嘔吐または過食一下剤乱用タイプの摂食障害は食べ物が多量にありかつダイエット志向文化を持つ文明でおこることです。おそらくコンビニの存在が過食を容易にしているところもあるように思います。

この病気は重大な身体疾患を併発す

るため、入院中に不幸にして亡くなることもしばしばあるようですが、当院ではここ20年間重症の患者さんの入院治療を多数してきたにもかかわらず、身体の急変をすぐに見つけてくれる精神科スタッフと、急変に迅速に対応してくれる一般科の医師やスタッフのおかげで、入院中に亡くなった方が一人もいないということは、誇れることでありとても有り難いことだと思っています。

みやざき よういち

近森病院

4月1日より5年間、「超音波専門医研修施設」に認定されました。



6月の歳時記

ヤマアジサイ

近森病院地域医療連携センター
看護師 村田 美保

ヤマアジサイは、主に太平洋側の福島県から四国・九州に分布し、半日陰の湿り気のある林や沢沿いに生育しています。このことから別名のサワアジサイの名前がつけられました。

中央から花の外側に向かって咲き、縁に沿って装飾花をつけてガクアジサイと同じようにガク咲きとなります。野趣に富んだ樹形で、花色や花形は地域による変異が多く、山野草として愛好家の間で人気の高い花木です。

むらた みほ



● 近森看護学校通信 17 ●

一期生の素顔

開校から2年が経ち、一期生も3年生となりました。入学した頃は、「本当に看護師になりたいのかな」と不安を感じることもありましたが、一期生は先輩がいないからこそ自分たちの力で学校を作り上げていくという意識が高く、学校行事でも率先して活躍してくれています。また、臨地実習では指導者さんから叱咤

激励を受け、「看護とは何か」という事を自問自答しながら真摯に患者さんに向き合っており、その姿をみると着実に看護師に近づいているなと頼もしく感じます。

今年度はいよいよ卒業です。入学式で飛ばした風船のように、それぞれの夢に向かって天高く舞い上がっていく事を願っています。

3年生担任：上総満高



▲2年前の入学式。それぞれの夢を風船に乗せて
▶現在の様子。真剣な眼差しで実習での学びを共有



高知県糖尿病看護 土佐の会を紹介します。

近森病院北館4階 看護師主任
糖尿病看護認定看護師

岩井 千代美



「土佐の会」は高知県内の看護職員の自己研鑽の機会提供や交流による情報交換を行い、糖尿病看護の普及促進を目指し設立され今年で6年目を迎えます。

年3回、当院の管理栄養士や循環器内科医師らの講演や当院会議室でのフットケア講習を行い、参加者からは「勉強になった、楽しかった、また参加したい」と好評をいただいています。

研修会は糖尿病療養指導士更新のための単位取得研修となり、看護職以外

の方も研修に参加出来るようになりました。8月にはちより街テラスにて「実践！フットケア」、10月には幡多地域で開催、1月には「血糖パターンマネジメント」を企画しています。

「土佐の会」のホームページで詳しい情報もありますのでぜひご覧いただきご参加ください。

いわい ちよみ



ハッスル研修医

気づけば早1カ月



初期研修医（2年次）
植村 夏実

たすき掛け研修で4月から近森病院に来ました、2年目研修医の植村夏実と申します。「たすき掛け」とは、2年間の研修を1年ごとに別々の病院で行うプログラムのことです。私の場合、昨年度は大学病院で研修し、今年度からは、近森病院で研修させていただいています。

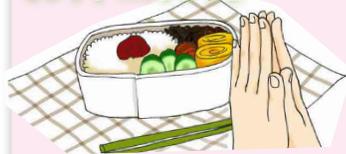
2年目とはいっても、カルテの使い方はもちろん、救急対応などもほとんど初めてで、右往左往、試行錯誤の日々です。最初は慣れない現場で戸惑うこともありましたが、気づけば早1カ月が過ぎ、現在はなんとか慣れてきた、のかな？というところです。

近森病院は救急車の数も多く、軽症～重症までさまざまな患者さんが来院します。常にめまぐるしく状況が変化するなかで、今起こっていることを把握し、対応できる力を今後の研修で身につけていきたいと思っています。

まだまだ未熟ではありますが、少しでも患者さんに、近森病院に貢献できるよう精進して参りますので、今後とも温かく見守っていただければ幸いです。 うえむら なつみ

お弁当拝見 53 看護部長室のお昼ご飯

看護部長室
看護師 安松 和美



看護部長室で一緒にお昼ご飯を食べるようになった頃は、お弁当の味が分からないくらいに緊張していましたが、今ではみんながどんなものを食べているのか、観察する余裕が出てきました。手作りのお弁当も、

お弁当屋さんの物も、彩りがとてもきれいで栄養バランスが良さそうなお弁当ばかり。いつも美味しそうで見ているだけで楽しくなります。油断すると、茶色いおかずがメインのお弁当になりがちですが、私も彩りを気にするようになり、見かけは健康弁当を毎日持参しています。 やすまつ かずみ

図書室便り 2017年4月受入分

- 内服薬経管投与ハンドブック簡易懸濁法可能医薬品一覧第3版／倉田なおみ（編）
 - 錠剤・カプセル剤粉碎ハンドブック第7版／佐川賢一（他編）
- 《別冊・増刊号》
- 別冊整形外科 No.71 骨折（四肢・脊

椎髄外傷）の診断と治療（その2）／遠藤直人（編）

- 関節外科基礎と臨床 4月増刊号関節鏡手術の最新の話／吉矢晋一（企画・編）
- 泌尿器外科 Vol.30 特別号後期研修医がおさえておきたい泌尿器疾患 TOP302017／赤座英之（他編）

- 臨床泌尿器科増刊号 泌尿器科検査パーフェクトガイド／大家基嗣（他編）
- HEART nursing 春季増刊オールカラー循環器の病気づかん心臓ビギナー集まれ！治療もケアもしっかりわかる／木原康樹（監）



新制度 精神科 認定看護師になりました

近森病院総合心療センター
外来看護師長 山下 ちぐさ



従来「うつ」「退院調整」など10領域に分かれていた内容が統合されて新制度になった精神科認定看護師資格を取得しました。最新の

知見を得たい、経験の整頓をしたいと思いつてのチャレンジでした。研修で出会った仲間からは刺激をもらい、また、県内の病院や施設での実習や演習を通じて貴重な知り合いもできまし

た。今後は、リエゾン活動等で皆様のお役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。

やました ちぐさ

2017年3月30日に来院

オリバー・ビョルクステン先生はアメリカから35年前に高知大学精神医学教室に半年間ほど短期留学されていました。その当時近森病院精神科科長であった田村先生に大変お世話になったそうで、埼玉医大病院の池淵氏が近森病院ホームページに田村先生の所在問い合わせを仲介してくださり、35年ぶりに再会することが出来ました。

ビョルクステン先生はアメリカ南

オリバー・ビョルクステンMDの病院訪問



カリフォルニア州で精神科医を開業されていたのですが、引退され現在はご夫婦で海外旅行をされており、高知には

3月中旬に来られ秋頃まで滞在されるそうです。

また、明神先生も同医学教室に入局直後で近森病院に派遣されていて、ビョルクステン先生の勉強会で英語のプレゼンテーションをさせられ緊張したことや、暮と一緒に打ったりご自分の車で大学から近森病院まで同乗された思い出があり、同氏を囲み懐かしそうに歓談していました。

総合心療センター

リレー エッセイ

雨ニモマケズ

近森リハビリテーション病院 3階病棟西
介護福祉士 水田 沙也加



梅雨の時期に入り雨がが続いています。雨の日があまりすきではない人も多いのではないのでしょうか。我が家はイベントがある時は、必ず雨が降ります。

まず始めに、主人との最初のイベント、結婚式では山内神社の参道を親族達と共に白無垢を着て歩く予定でしたが、雨のため行えず。結婚式2日前の前撮りも、途中までは曇りでしたが雨です。全撮影を植物園の屋外で行う予定にしていたため、途中から温室の所に入り撮影を行いました。まるでジャングルの中にいるかのようなアングルになりました。(笑)

続きまして、長男出産の日。見事な大嵐でした。初めて立ち合い出産を経験した主人は、出産後わが子が誕生した喜びを噛みしめながら車の

ハンドルを握り、嵐に負けないよう帰宅したそうです。

そして次男出産の日。大嵐ではありませんが、こちらも雨でした。出産後は記録的な猛暑の日。徹夜で立ち会った主人は、出産後睡魔と暑さに負けないよう帰宅したそうです。

そんなこんなで、イベントの時には雨が降る我が家ですが、子供の運動会や遠足等の行事はちゃんと上天気です。なので、決して夫婦・子供共々雨男・雨女ではありません。(笑) 嵐と雨の中生まれた子供達も大きくなり、雨の日には雨靴を履き、最初は上手く差せなかった傘も嬉しそうに差し(時には刀となり)通園しています。

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」に“雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏

ノ 暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ”とありますが、我が子にもこの詩のように雨・夏の暑さ・睡魔(補足)に負けなかった丈夫な主人のようになってくれたらなと思う今日この頃です。

みずた さやか





嚥下障害の患者さんへの ケアの向上を目指します。

近森リハビリテーション病院 3階病棟西
看護師 遠藤 恵

近森リハビリテーション病院には8名の回復期リハビリテーション看護師が在籍しており、患者さん・ご家族に質の高い看護・ケアを提供すること、そのためのスタッフ教育支援、相談・調整を担っています。私は、2014年認定コースを修了し、主に嚥下障害についての教育に携わってきました。

当院は、脳卒中中の患者さんを中心にリハビリテーションを提供しており、嚥下障害の患者さんも少なくありません。そのような患者さんの「食べたい」という思いに少しでも応えたいと思い、主に嚥下障害のケアに関わる活

動を行っています。

例えば、ケアの場面では、嚥下障害が改善した患者さんの食事の形態が嚥下食から全粥食などへスムーズに変更できるように介入したり、嚥下障害の患者さんの嚥下評価(VFやVE)についてスタッフへの教育を行ったりしています。

また、新人教育では実際にトロミ茶を飲んだり、食べにくい姿勢でクッキーを食べたりする体験を通して患者さんの立場に立ったケアを考えてもらう取り組みや、嚥下の基礎知識の講義も行ってきました。



しかし、嚥下障害やそのケアについてはまだまだ勉強することも多く、院内で開催されているSSP(Swallow Support project)の運営にも携わりながら、その学びを患者さんのケアにつなげていけるよう、委員会メンバーや回復期リハ看護師とともに活動していきたいと思います。

えんどう めぐみ

FIM 講習会の開催報告

2017年5月14日

日常生活機能を評価するツールとして

近森リハビリテーション病院

院長 和田 恵美子

FIM (Functional Independence Measure 機能的自立度評価表) は日常生活機能を評価するツールとして、2016年度診療報酬改定に取り入れられ、使用する施設が増えてきています。

当院では川崎医療福祉大学 椿原彰男学長と共催で、2012年より基礎編の講習会を開始し、今回から応用編も同

時開催としました。基礎編122名(高知県内29名) 応用編21名(県内4名)の参加があり、基礎編の受講者はのべ874名となりました。

応用編の準備は大変でしたが、FIMの理解がより深まったと思います。基礎編を受講されたかたは現場で実際に使用して、ぜひ来年の応用編にご参加

ください!

わだ えみこ



▲左から3人目筆者、右から3人目川崎医療福祉大学 椿原彰男学長



乞！熱烈応援

立ち位置を変えて

近森病院循環器内科
部長 要 致嘉



子曰く、吾 十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず。という孔子の論語を耳にしたことがある。近森病院に勤務し、はや10数年が経とうとしている。それなりに年齢も経験も重ねた。変わりゆく景色の中で、立ち位置を変えて努めていきたい。 かなめ のりよし

初心を忘れず

近森病院循環器内科
部長 中岡 洋子



患者さん、高知県の医療のために、スタッフの皆さんにお力添えいただきながら、初心を忘れず、日々努力していきたいと思ひます。

微力ではございますが、これからもよろしくお願いいたします。

なかおか ようこ

早いもので10年

近森病院循環器内科
部長 西田 幸司



早いもので近森病院に赴任し10年が経過しました。Patient first（患者さん第一）のみならず後輩の指導や近森病院への貢献を念頭に日々の診療をしていきたいと思ひます。

にしだ こうじ

初心に帰って

近森病院糖尿病・内分泌代謝内科、
リウマチ・膠原病内科
部長 近澤 宏明



近森病院に赴任し2年が経ちます。この2年間は勉学の意欲旺盛な若手の先生方と共に仕事をさせていただき、遠ざかっていた学会発表や症例検討会などを多数経験し、研修医で働いていた頃の初心に帰ることができました。今後も自己研鑽を重ね専門分野の診療、若手教育などに尽力して参りたいと思ひます。 ちかざわ ひろあき

現場を大切に

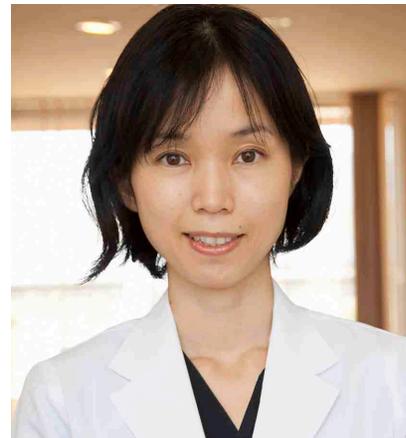
近森病院消化器内科
部長 市川 博源



近森病院に勤務し8年目になり、医師としてのキャリアの中で一番長く働かせていただいています。部長という役職の責任の重さを自覚しています。医療や病院の課題は現場にあると思ひますので、今まで以上に現場を大切にし患者さん、職員の声に耳を傾けたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。 いちかわ ひろもと

感謝と決意

近森病院消化器内科
科長 北岡 真由子



近森病院で勉強しようと後期研修医として入職して10年、その間2回の産休をいただき、同じ境遇の先輩医師の助言や、上司、同期の先生方にも支えていただき、ここまで続けることができました。今後も自らのさらなる向上と、これまでの経験を生かして後輩医師たちへの教育やサポートができればと考えています。 きたおか まゆこ

乞！熱烈応援

脱皮できない蛇は滅びる

近森病院形成外科
部長 杉田 直哉



光陰矢の如く、科長拝命から10年が過ぎました。タイトルはニーチェの言葉です。今までの考え方や価値観、成長過程で積み上げた物を捨てる事ができるかどうかで、人としての成長に違いが生まれます。

過去に固執せず、脱皮しながら、今後も日々の診療と後進の指導に微力を尽くしたいと思います。

すぎた なおや

常に上を目指して

近森病院整形外科
科長 高田 直樹



近森病院で4年目、今回科長になり身の引き締まる思いです。衣笠統括部長のもとでシステムティックにハイレベルな治療を目指しており、そんな環境で仕事ができていることに大変喜びを感じています。単なる歯車の一つとしてルーティンワークをこなすだけでなく、常に上を目指してたゆまぬ努力を続けます。

たかだ なおき

これまでもこれからも

近森病院腎臓内科・透析科
部長 吉村 和修



透析室は急性期の血液浄化療法が約4割を占め、非常に多彩な業務を行っています。入社して9年が過ぎ透析科では非常に多くの経験をする事ができました。部長就任を契機にこの経験をこれまで以上に近森病院の治療や後進の指導に還元できるように頑張らねばと感じています。これからもどうぞよろしくお願いします。

よしむら かずのぶ

新たな経験を求めて

近森病院麻酔科
科長 納庄 弘基



医師となっていくのまにか10年目を迎えました。これまで環境にも恵まれ、手術、麻酔、神経ブロックなど様々な経験を積むことができました。今後も探究心を忘れず新たな経験を求め続けるとともに、若い人たちにも自身の経験を伝えていくことで、周術期の安全に微力ながら貢献したいと思っています。

のうしょう ひろき

小粒ながら

近森病院消化器外科
部長 坪井 香保里



「山椒は小粒でもぴりりと辛い」。これは私が第一回目、2002年に近森病院に勤務した際に「ひろっば」での記事で引用しました。現在も同じ気持ちで過ごしております。

4月から外科のメンバーも新しくなりました。私自身も勉強して良い医療を提供できるよう頑張ります。これからもよろしくお願いいたします。

つばい かおり

近森病院「入院生活のご案内」リニューアルしました



2018年度
近森会グループ **看護職員
採用試験**

私たちと一緒に看護しませんか？

2017年
7/15

CHIKAMORI
HEALTH CARE GROUP

※中途採用希望の方は近森病院看護部長室までご連絡ください。

「乞! 熱烈応援」

ドイツ留学を経て、 高知へ



近森病院心臓血管外科
科長 佐藤 充

初めまして佐藤充と申します。地元は東北の仙台で、昨年一年間は語学、臨床を含めドイツ（主にフランクフルトとハイデルベルグ）に留学しておりました。

この度で縁をいただき5月8日より心臓血管外科に赴任となりました。科長の職をいただき勤務しておりますがこの役職に恥じぬよう、また一日も早く皆様のお役に立てるよう精進して参ります。また、この新しい環境にいち早く慣れることも重要と考えておりますので院内で見かけた際には気軽に声をかけて頂ければ幸いです。

因みに、高知での生活はまだ日が浅いですが、すでに居心地の良さを感じております。特に病院周辺の飲食店環境は素晴らしく日々誘惑が多いですが、メタボ防止のためにも何とか自炊を、(続くまでは)続けたいと思っております。

それでは今後とも宜しくお願い致します。

さとう みつる



▲ドイツでお世話になったカーク教授

医学博士の学位を授与される

苦節 13 年



近森オルソリハビリテーション病院
診療部長 西田 一也



今年3月3日。高知大学医学部教授会において、私の論文博士学位授与が承認され3月23日の学位授与式で学位記をいただきました。これで晴れて私は医学博士になったわけです。

なぜ今学位なのか。実は今から13年前長男が中学受験を控え受験勉強を頑張っていたとき、私も何とか一緒にがんばれないかと思っていたちょうどその頃、当時の高知大整形外科谷教授から社会人特別選抜の大学院試験のお誘いを受け、大学院に入りました。しかし仕事をしながら実験をして研究するのはなかなか大変で、論文作成も遅々として進まず昨年3月に大学院を退学という形になってしまいました。

もう学位は難しいかな? と思っていましたが、谷先生(名誉教授)に粘り強くご指導いただき、昨年論文の雑誌掲載が決まり今年学位申請、学

位授与となりました。私の論文タイトルは「An Effect of Repetitive Ulnar Nerve Stimulation on Rapid Finger Movements in Cervical Spondylotic Myelopathy and Healthy Subjects: a Preliminary F-wave Study in Healthy Subjects」(尺骨神経反復刺激が頸椎症性脊髄症例および健康人の手指反復運動に及ぼす効果: 健康人におけるF波を用いた検討)です。

意味がよくわからないと思いますが、要は頸髄症患者さんの尺骨神経を反復刺激すると手指の動きが良くなり、そのとき脊髄の電気的な状態がどのように変化するかを解析する。ということでも健康人に対して行った検査結果を検討したものです。

これを臨床に応用するため、まずは手指運動障害を有する頸髄症患者さんに電気刺激を行い、リハビリ時の手指動作を改善できないかと考えています。でもまずオルソ病院に筋電計がいるか……。 にしだ かずや

本館受付前水槽 僕らはみんな生きている 8

クラウンローチ



ナマズ(ローチ)の仲間。(決して阪神ファンではなく)好きな人は熱烈に好きな熱帯魚のようだ。理由はこの黒とオレンジの縞模様もだが、なによりもそのおとなしい性格や寝姿によるようだ。あまり見かけたことはないが、寝るときは横になったり縦になったりして眠るのだという。好きな人は可愛らしい顔やヒゲの生え方までたまらないそうだが、なにか「アバタモエクボ」のような気もしないではない。が、ぼーっと虚空を眺めていたり、あくびをしたり、その人間的な動作が、眺めていて飽きないのだという。 編集室

▼「こんぴら歌舞伎」パンフレットの表紙



趣味というほどではありませんが、毎年楽しみにしているものに「こんぴら歌舞伎」があります。平成26年の第30回記念公演で「菅原伝授手習鑑」の「寺子屋」の場面を泣きなが

私の趣味

古典芸能への誘い

近森病院北館2階病棟

看護師長 佐藤 久美子



ら観て以来、毎年通っています。

歌舞伎は敷居が高いものと思っていましたが、笑いもあり、女形には惚れ惚れ、隈取り（メイク）や衣装、日本の伝統美満載で本当に楽しめます。今年は片岡仁左衛門さんの色気にもうメロメロでした。

また、昨年11月はオレンジホールに片岡愛之助さんの「連獅子」にも行きました。さらに、古典芸能に目覚め？、今年の3月には野村万作・萬斎さんの「狂言」も鑑賞。狂言を初めて観ましたが、古典版“よしもと新喜劇”みたいな感じで、とても

楽しかったです。最近は、普段の生活でも飛び六方をしたり（何も無い平らな所でつまずいているだけ）、見栄を切ったり（料理中に身を切っただけ）しています（笑）。

故中村勘三郎さんが、以前テレビで「型を持つ人が、型を破るのが型破り。型がないのに破れば型無し」と言われており、とても感銘を受けました。「基本なくして応用なし」。私も看護師として、いつまでも基本（初心）を忘れずに、患者さんの看護に励んでいきたいと思えます。

さとう くみこ

献血キャンペーン

ありがとうございました。



5月22日（月）に献血キャンペーンを開催しました。今回は74名の方にご協力いただきました。

ありがとうございました。次回は8月に予定しています。

近森病院本館1階

撮影機器を入れ替えました



これまで使用していた本館1階の一般撮影X線撮影室2部屋の、X線高压装置とX線制御器が、2007年の製造中止で部品の供給が難しいため、今回機器を更新しました。

作業期間中ご協力ありがとうございました。 画像診断部 中村伸治

▼旧制御器



▼新制御器



ワイン講座 ● 53

ぶどう品種を知り、個性を探る
黒ぶどう その31 ポルトガル篇

マデイラワイン ブアル種

エイジ・ド・ヴァラエタル・マデイラ・ブアル10年熟成/バーベイト/ポルトガルマデイラ島 ● 前回のものよりも少し甘みを抑えた中甘口タイプ。少し金色がかった淡い琥珀色。蜂蜜やレーズン、バニラを思わせる凝縮された香り。おだやかな酸とそれを包み込む優しい甘さが素晴らしい調和を見せ、長い余韻を楽しめます。2008年洞爺湖サミットのワーキングランチでも採用された、折り紙付きの品質です。



マデイラの歴史は、ポルトガルの大航海時代の黄金期にあたる1419年にマデイ島が発見されたことから始まります。ポルトガルの貴族たちはこの島の植民地化を進め、当初はサトウキビの生産を進め、成功を収めます。その後、16世紀に入るとサトウキビの生産量が減り、この時代からサトウキビに代わり葡萄の木が植え始められます。

17世紀ごろからマデイラ島のワインの生産量は徐々に増え始めるのですが、この時代はまだ酒精強化と加熱処理の技術は確立しておらず品質は不安定でした。18世紀に入り、マデイラワインは世界中で大人気となります。この時代に酒精強化と加熱処理の新技術が確立され、特にアメリカとインドで

大人気となりました。なぜ、アメリカとインドなのかは、ヨーロッパから船で貿易をする際にマデイラ島を中継することになり、その際にマデイラワインを積んで目的地に向かうので、当時ヨーロッパの最大の貿易相手国であったアメリカとインドへは大量のマデイラワインが輸出をされました。

特にアメリカでは人気があったようで、1776年4月のアメリカ合衆国の独立宣言を祝うにあたり、初代大統領のジョージ・ワシントンはマデイラワインで祝杯を挙げたと言われています。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



佐藤 充

さとう みつる ①心臓血管外科（科長）②仙台市③和歌山県立医科大学・東北大学（大学院）④料理、スポーツ。病院近辺は飲食店も多く魅力的。メタボにならないよう自炊を続けたいと思います（続くまで）。

● **人の動き** ● 敬称略

バレーボール大会

5月13日のバレーボール大会には54名の参加がありました。優勝グループはTJ（ティージェイ）でした。



● **おめでとう** ●

**よさこい「ちかもり」にご支援を
本祭まで、あと約2カ月!!**



2017年4月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,908人
新入院患者数	1,031人
退院患者数	1,029人

近森病院（急性期）

平均在院日数	13.99日
地域医療支援病院紹介率	68.57%
地域医療支援病院逆紹介率	175.14%
救急車搬入件数	570件
うち入院件数	325件
手術件数	444件
うち手術室実施	292件
うち全身麻酔件数	178件

● **2017年4月 県外出張件数** ●
件数 47件 延べ人数 71人

● **編集室通信** ●

入梅の季節、花菖蒲・紫陽花・石榴の花が、五風十雨の合間に咲き、芒（穂）のなる種をまく芒種。・・と気にかかるようになったのは50歳近くの年のせいであろうか。小満にて爽やかな日もあればぐずつく日もあり。社会ニュースは相変わらずヨーロッパでのテロ対応と政治不信。新年度から2カ月が経過、頑張れ新人諸君！

同じ目線を尊ぶ「二刀流」

冬の日本海でサーフィン

薬学部で学んで薬剤師の資格を取り、医学部へ入り直して医師資格も取り、計14年を雪国金沢で過ごした。趣味は、冬も夏も時間が取れる限りはサーフィンに挑戦することだった。

ストレス解消というより、オフでさえも、まるで「忍耐力の鍛錬」が目的のようにも映るが、浅黒くてキンコツ頼もしいイケメンの趣味としてはいかにも、という印象だろうか。



▲北陸での趣味一押しはサーフィンだった

医療ファミリーで育つ

5年前、高知の近森病院に赴任して以来は、「一年中、最高の波が得られ、世界的に有名な高知で、海へ行けないのがちょっと残念」と、その忙しさが満更でもなさそうに、カラッとおどける。

軍医だった両祖父に医師の父、浜重直久前副院長と30年来仲良しの叔父も医師の医療ファミリー。生まれたときから、当然のように医療に携わるであろう将来が期待され、そういうなかで育ってきた。

高校時代、進学先を考える頃はちょうど医薬分業が云われ始めたころで、時代感覚に敏感だったのだろう、「まず勉強すべきは薬学ではないかと思った」という。なるほど！

親から指図をされたような記憶は余りなく、むしろ「やりたいことをやっ

たらいい」スタンスで、アルバイトも飲食関係からドラッグストア、力仕事まで「何でも背中を押してもらえたような印象」が残っているという。

「遠回りだったようでも、できる経験を色々させてもらえて良かったと思える」のだ。

薬学部から医学部へ

患者さんに対しても、またそれ以外の人間関係でも、「目線を同じくすることを意識している」という。目の前の「あなた自身に興味を持っていますよ」とアピールするような「独特の人懐っこさ」が印象的だが、これは育った環境プラス高校時代からのアルバイト経験が影響しているのではないだろうか。

医療ファミリーで、その環境のまま成長し、周りとは融和に努め、少なくとも自分からカベを作って誰かを遠ざけるというような意識はなく、スクスクと大人になった。

薬剤師の資格は取ったが、「もっと広げた分野で医療に関われるのが将来的には良いかも…」と思い始めて医学部を受験し直したとき。これまでの一直線にちょっとした「休憩」が入ったのかも知れないが、その方向転換に際しても「気長く見守ってくれた親に感謝以外ない」そうだ。

「周介」の命名

どこに住むかは、山科先生のなかでは比較的大きな比重を占めるようで、それが例えば雪国金沢を選ぶ一つのきっかけにもなったらしい。

歴史や文化に興味があるというのも育った環境に依るところが大きいのだろうが、古本屋巡りが大好きな父上の書庫は、きつととてつもなく立派に違いない。「周介」は、この勉強家の父上の命名である。

哲学や心理学の訳語者としても知ら



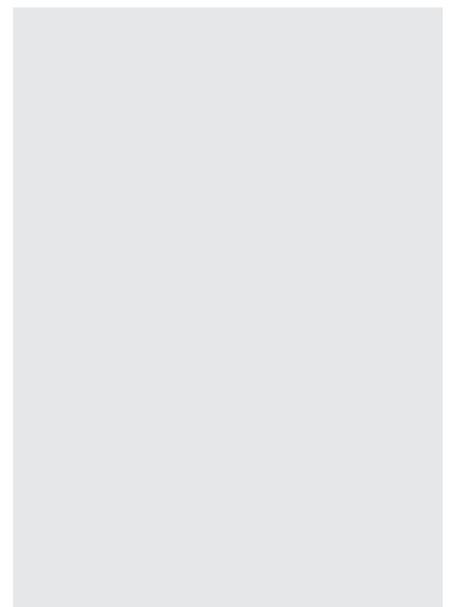
▲内視鏡カメラ前で、「サブとして修業中です！」

れる啓蒙思想家の西周助（のちの西^{あまね}周）が参考にされた。

覚えたいこと気になることがいっぱい

「あまり意味のないおしゃべりや他愛のないことに、敢えて価値を見つけない。それを大事にしたい」といわれる。反面、どの瞬間も無駄にしない「卒のなさ」とでもいうのか、手際の良さが評判だ。循環器の先生方から「消化器が専門なのか（笑）」といわれてしまうほどに、内視鏡検査その他の分野でも、「覚えたいことや気になることがいっぱい忙しい」のだ。

専門の循環器ばかりではなく患者さんの背景を含めて生活全般を思えることを目標に、また、いずれは地域医療に携わりたいと考え、多方面に抜かりない日々が続いている。



特定行為研修修了看護師としての今後の活動

近森病院救命救急センター（ER） 救急看護認定看護師

特定行為研修修了看護師 酒井 由夏

平成 28 年 11 月から 5 カ月間、日本看護協会研修学校で行われた特定行為研修を受講してきました。

看護協会は、認定看護師を対象に特定行為研修を行うことで、その専門性を活かし、特定行為を含むタイムリーな対応で、質の高い医療・看護を効

率的に提供することを目的としています。

そのなかで救急看護認定看護師は緊急度・重症度の高い患者への初期医療にかかわり、早期介入で重症化予防をはかることで、安心安全な療養生活が継続できるように支援することが役割

として期待されています。

今回の研修で、5 区分 14 行為の特定行為研修を修了し、一部の医療行為を実践することができます。しかし、その基盤は看護であり、質の高い看護を提供する

▼呼吸器内科石田部長（右）と筆者



ための一手段として、特定行為の実践を行っていきたくと思っています。

現在、呼吸器内科石田正之部長とともに、人工呼吸器を装着中の患者さんに対し、人工呼吸器の早期離脱に向けて調整などを行っています。早期の社会復帰に向けての手助けになるように、今後も石田部長とともに、人工呼吸器管理を行っていきたくと思っています。

さかい ゆか



近森会グループ

職員数

1,991 人

(2017 年 4 月 1 日現在)

委託を含む実質的な職員規模は 2,340 人となり、多くのスタッフでチーム医療を展開し、日々患者さんをサポートしています。

近森病院

救急車搬入件数

7,063 件

院内救急車出動件数 59 件
ドクターカー 40 件
ドクターヘリ受入件数 135 件

近森病院

手術件数

5,502 件

急性期医療に取り組む近森病院では、一刻を争う患者さんが多く、日曜祝日関係なく、1 日当たり平均 15 件の手術数です。

近森病院

延べ外来患者数

159,997 人

地域医療支援病院として地域に密着した医療を展開しています。外来患者さんは 1 日当たり平均 438 人（土日祝日を含む）です。

近森病院

延べ入院患者数

153,323 人

急性期病院として一般病床 452 床を確保。常時入院中患者さんは 1 日当たり平均 420 人。

数字でみる近森会グループ

2016 年度の実績

2016 年 4 月～ 2017 年 3 月

近森病院の実績は精神科を除く

近森病院

退院患者数

10,489 人

近森病院に入院されている患者さんが 1 年間に退院された数字です。平均在院日数は 14.60 日です。

近森会グループ

延べ見学者数

221 人

見学受け入れ件数は 46 件。(実習や部門での個別受入は除いています)

精神科グループ

総合心療センター

精神科 1 日平均外来患者数

135 人

デイケアパティオ復職率 73.2% (41 名)
デイケアメンタル就労率 32.2% (20 名)
ラポールちかもり月平均 315 名訪問

近森リハビリテーション病院

在宅復帰率

77.8%

重症患者割合：日常生活機能評価 10 点以上 35.4% / 重症患者改善率 48.9% (日常生活機能評価点数 4 点以上改善)

近森オルソリハビリテーション病院

病床稼働率

98.8%

在宅復帰率
地域包括ケア病床 88.4%
回復期病床 89.5%